

報道関係各位
プレスリリース

2019年1月24日

民衆にとっての「墓」の変遷—葬送の原点を探る

高齢化社会の到来に伴いかつては考えもしなかった問題が次々と現れてきています。葬送のあり方や墓の問題もその一つです。「墓」という言葉で想起するエジプトのピラミッドや日本の古墳は支配者の墓であって民衆の墓ではありません。また、「家墓」は古来の概念ではありません。家の墓を守るのが「伝統」と語られますが複数人が同じ墓に入る前提となる火葬率が6割を超えたのは1960年以降のことです。弔いの形態はこの30年で多様化しています。また、近年では放棄墓の問題も深刻になっています。名もない民衆個々にとって、死者とはどういう存在で、「ハカ」とはどのようなものだったのでしょうか。本講座では、いま大きく変わりつつある日本の葬送を考える視座を探ります。

講師 碑文谷 創（葬送ジャーナリスト）

1946年生まれ。東北出身（岩手・一関、宮城・仙台）。東京神学大学大学院修士課程中退。出版社に勤務し、44歳で独立、葬送文化専門雑誌『SOGI』編集長を四半世紀務める。経産省「ライフエンディング・ステージ」研究会委員、葬祭ディレクター技能審査企画委員、IFSA顧問等を歴任。本邦初で唯一の「死と葬送」に関する総合歴史年表（「人の死・葬送を歴史のコンテキストで読む」）をまとめるなど葬送分野の歴史・記録の編著が多い。現在、死、葬送、宗教に関する評論・講演活動を展開。著書は『「お葬式」はなぜするの？』、『死に方を忘れた日本人』『葬儀概論』（現在4訂）ほか多数。



開催概要

- 日時：2019年2月26日（火）19:00～20:30（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：ホームページの申込フォーム、電話（03-3502-3340）、来館（1階受付）いずれかにて、
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：中澤 nakazawa-hiroyuki@shopro.co.jp / 並木 namiki-yuri@shopro.co.jp

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL：03-3502-3342 / FAX：03-3502-3341

ホームページ：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/